

<株式会社エフエム東京 第350回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成20年6月10日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社10階大会議室
3. 委員の出席：委員総数8名
◇出席委員（6名）
子安美知子 委員長 青池慎一 副委員長
内木文英 委員 渡辺貞夫 委員
内館牧子 委員
横森美奈子 委員
◇欠席委員（1名）
香山リカ 委員
4. 議題
(1) 最近の活動について
(2) 番組試聴：「バイブル」
2008年6月9日（月）16:00～16:20 放送分

<試聴時間：約20分>

≪議事内容≫

議題1：最近の活動について

- ◎「SCHOOL OF LOCK!」から10代限定の文学賞「蒼き賞」が創設
リスナーモデルから全国でポスター広告掲出キャンペーンを展開

「SCHOOL OF LOCK!」では、5月26日（月）「幻冬舎」とのコラボレーションにより、10代限定の文学新人賞『蒼き賞』を開設し、作品を募集することを発表しました。

この文学賞では、作品のあらすじと、第1話のみの、“未完成作品での応募”を実施。その後、最終ノミネートに選ばれた数作品を、PCと携帯の番組WEBサイト上

で10週間にわたり連載し、優秀作品は、2009年に幻冬舎より書籍化され全国で出版されるというプロジェクトです。

また、同番組では、今年3月に開催されたリスナーモデルオーディション企画“モデチャングランプリ”にて、リスナー投票で選ばれた入賞者8名（男子4名・女子4名）を写真に使用した番組宣伝ポスターを制作し、6月9日（月）から15日（日）の一週間、全国47都道府県の主要ターミナル駅周辺に掲出いたします。

各地のポスターには、それぞれキーワード（一文字）が記載されており、リスナーがポスターを発見して番組に写メールを送ることにより、メッセージを完成させることで、次の番組大型企画を発表するという仕掛けになっております。

その他、番組発の10代限定バンドオーディション企画「閃光ライオット」も予選会を実施中など、“未来のカギを握る学校”として、10代の夢の実現のきっかけを与える企画を多く展開しています。

議題2：番組試聴

【番組名】「バイブル」

【放送日時】2008年6月9日（月）16:00～16:20放送

【番組概要】

HIV陽性者や周囲の人の手記を通じてHIV/AIDSを考えるイベント
“Think about AIDS” 第二弾

報道ベルト番組「バイブル」（月～木曜16:00-16:20）では、ヒューマンコンシャスの一環として、昨年12月の実施に引き続き、HIV/AIDSについて考える番組企画およびイベントを実施しました。

放送では、HIV/AIDSについて、正しい知識の啓蒙と陽性者との共生を呼びかける活動を行っているプロジェクト“Living Together計画”と連動した特集を5月26日（月）から4日間に渡って実施。6月6日（金）には、映画監督橋口亮輔さんと作家のリリー・フランキーさんをスペシャルゲストとしてお迎えし、内田恭子、Chigusa、やしろ教頭らTOKYO FM番組パーソナリティも参加しての、HIV陽性者とその家族・恋人たちによる手記の朗読を通して、HIV/AIDSをリア

ルに感じ考えるためのイベント「ポエトリー・リーディング ～Think About AIDS」を前回に続きTOKYO FMホールで実施いたしました。

今回ご試聴頂く「バイブル」はそのダイジェストを紹介したものです。

<試聴時間：約20分>

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側説明)

- 6月1日～7日はエイズ検査普及週間であるのに、テレビなどではほとんど取り上げられていない中、TOKYO FMの教養の高さを感じた。こういうことを先駆的にやっていくことで、局そのものの価値も高まっていくとよい。リリー・フランキーさんのジョークもまじえながら真面目な話もできる、トークの幅広さには説得力があった。こういうことは是非続けていって欲しいと思う。
- 自分も性教育の講義などで感染者と接したことがあったが3人とも亡くなってしまい、番組を聴いて入ると、そのことを思い出された。もう少し性的なことまではっきり言ってしまってもいいのではと思った部分もあった。
- 聴取率も大事だが、それだけを追い求めるのではなく、質の高い番組を制作していくことも必要である。そうした意味で、こういう番組を試聴できることは、審議会委員としてもありがたいと思う。番組にスポンサーがついていないのは残念。スポンサーがつくようになると、もっとよいと思う。
- 番組としては啓蒙的でよい番組だと思った。ただ、実際に海外で感染者の人と2週間ほど一緒に過ごしたことがあり、その後にこの番組を聴くと、日本ってなんて恵まれているんだろうと思ってしまった。より、海外の現実なども知ってほしいと思った。
- エイズを通して、人間の温かさに気付いたり、自分の人生の姿勢を考え直

す、という部分につなげている意味では、うまくできていたが、エイズの啓蒙にはなっていないように思う。コンセプトが曖昧な分、エイズのことを話しているのか、もっと広いことを話しているのか、わからなくなる部分があった。エイズを考えるとという部分ではインパクトに欠けたが、涙もあり、笑いもあり、尖がった部分がない分、会場が一体化する空気を生み出していた。ほんの一瞬でも、ひたむきに生きようなど、参加者が思えたのは、必要なことであり、定期的にやるのもよいことかと思った。

- 自分は感染者と直接触れ合ったこともなく、体験もしていないので、わかりえない部分もたくさんあるが、例え自分の身に体験がなくとも、わかり合うことはできないのか、という大きなテーマを考えさせられた。特に、橋口監督が朗読した感染者の手記の中に書かれていた生まれたての赤ちゃんに直面したときの感染者の気持ち、リリー・フランキーさんが口にした「無知とは、もはや今の時代、教養がないということに等しい」という一言には、はっとさせられた。ここで彼が言った、「教養」こそが、本当の意味での教養だと思った。

5. 放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6. 公表

議事内容を以下の方法で公表した。

- ① 放送：番組「Heart Sharing」
6月22日（日） 6：00～8：30放送
- ② 書面：TOKYO FM サービスセンターに据え置き
- ③ インターネット：TOKYO FMホームページ内 <http://www.tfm.co.jp>

7. その他

次回審議会は9月2日（火）に開催することを決めた。

以上